



## く め 久米の仙人

「今は昔」の書き出しで始まる『今昔物語集』。わが国最大の説話集で、平安時代後期の成立とされる。全三

五月三日に行われる二十五菩薩練供養会式。可憐な稚児行列に続き、お面と衣裳をつけ菩薩に扮した信徒らが、本堂と合掌道場を結んで架けられた橋を練り歩く。



榎原市広報広聴課提供

十一巻。千を超える説話を収録。仏教説話を中心だが、世俗の説話も三分の一以上を占める。その『今昔物語集』の中にあるお話。

今は昔、吉野の竜門山腹にある竜門寺に、久米という男が籠もって仙人の術を修行していた。めでたく仙人となった久米が、空を飛行していると、吉野川のほとりで若い女

材木が南の山から空を飛び、こちら

が着物の裾をたくし上げ、洗濯しているのが見えた。その真つ白いふくらはぎに目を奪われ、あるうことが、久米は神通力を失って、女の前に落下してしまった。

久米は、やがてその女と夫婦になった。そのころ、天皇は、都を造ろうと人夫を集めていた。久米もその人夫として働いていたが、仲間が彼のことを「仙人」と呼ぶのを聞いた役人は、「では、多量の材木を空を飛ばせて運んでみよ」といった。

そこで、久米は、ある静かな修行道場で、心身を清め、断食し、七日七夜、祈り続けた。八日目の朝、ついに久米の術は成功した。

一天にわかにかき曇り、雷が鳴り、雨が降り、が、しばらくすると、空は晴れた。と、その時、夥しい数の材木が南の山から空を飛び、こちら

に向かつてくるのではないか。それを見た役人たちは、久米を敬った。この噂は天皇に届き、免田(税を免除される田)三十町(約三〇ヘクタール)が久米に与えられた。彼は喜び、寺を建てた。それが久米寺であるという。

畝傍山の東南麓、近鉄榎原神宮前駅近くにある久米寺は、緑の多い落ち着いた雰囲気だ。境内に京都の仁和寺から移築された多宝塔(国重文)をはじめ、本堂、観音堂、御影堂、地藏堂、鐘楼などが建つ。ほとんどが江戸時代の建物。一説には、飛鳥時代、聖徳太子の弟、来目皇子が建立したともいうが、古瓦や塔の礎石などから奈良時代前期の創立と考えられている。初夏はつつじ、あじさいの花が境内を美しく彩る。

### 久米寺本堂



江戸時代建立の本堂。寺伝では、両眼を失明した聖徳太子の弟、来目皇子は薬師如来に祈願し、平癒したという。本尊の薬師如来像はそれに因む後世の作。左は石造の久米仙人像。

### 「久米寺」へは…

近鉄榎原神宮前駅  
下車、北西に約200m。



久米寺 榎原市久米町502  
☎0744・27・2470

ゆかりの場所を訪れよう

